

（西暦） 令和 5 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

職場定着支援従事者の精神障害がある利用者への支援とその根拠

学位の種類： 修士（作業療法学）

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻作業療法科学域

学修番号 22896701

氏 名：浅黄 真紀子

（指導教員名：谷村 厚子 教授）

はじめに

民間企業で働く精神障害がある当事者の数は、令和 4 年には 10.9 万人と伸び率が大きい一方で、早期離職者が多いことが課題となっている。精神障害がある利用者への就労支援では、働きながらどのような人生を歩んでいくのかというプロセスの共有が重要であり、職場定着支援においても同様のプロセスは重要だと推測されるが、その支援プロセスや支援根拠を明らかにした先行研究は見当たらない。また、障害者就労に関わる人材養成については、実践的な研修を受ける機会が限られており、学ぶべき職場定着の支援プロセスやその根拠に関する知見が不十分なため、支援者の質には課題があるとされている。

そこで本研究では、職場定着支援従事者を対象として精神障害がある利用者への職場定着支援のプロセスとその支援を決定する根拠を、質的研究を用いて明らかにすることを目的とした。

方法

本研究では、半構造化面接を実施してデータ収集を行い、分析には修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用いた。対象者は、職場定着支援の開始から終了までの支援経験があり、就労支援の経験年数が 3 年以上で、ジョブコーチ養成研修を修了している者とした。インタビューは 2 回実施し、1 回目はインタビューガイドを用いて行い逐語録を作成した。2 回目は逐語録を基に、内容のずれや間違いがないかメンバーチェックを行った。

結果

対象者は 12 名で、精神保健福祉士は 6 名、作業療法士は 5 名、社会福祉士は 1 名であった。M-GTA の分析から 32 の概念との 6 のサブカテゴリ、3 つのコアカテゴリが生成された。

職場定着支援従事者は、＜支援対象は利用者と企業＞であること、＜幅広い視点で利用者の人生を捉える＞ことなどを【支援者の心掛け】として意識していた。また、＜ニーズに合った専門職の理論と実践＞などの【支援を決める拠りどころ】を基に、《利用者と企業の折り合いをつける》支援や《軌道にのった後の支援のさじ加減》を行うだけでなく、必要時には《離転職時の支援》を行い、《遠慮なく相談できる場を確保》に至る【勤労者役割を支えるプロセス】が示された。

考察

以上より、職場定着支援のプロセスは、人-環境-作業の相互作用を重視して支援を行う作業療法プロセスとして説明可能だと考えられた。多職種が連携して利用者のキャリア形成を見据え、自身の専門性を活かした多面的な職場定着支援をするために、作業療法の視点や理論は有用であることが示唆された。